

右・左 肩腱板断裂の手術を受けられる患者さんへ

様

	手術当日								
	入院当日	術前	術後	術後1日	術後2日	術後3～7日目	術後8～14日	術後15～21日	術後22～退院
	月 日()	月 日()		月 日()	月 日()	月 日()～月 日()	月 日()～月 日()	月 日()～月 日()	月 日()～月 日()
目標	手術の準備が安全に行われる。		循環動態が安定している。 痛みのコントロールができる。	痛みのコントロールができる。	車椅子に移動できる。 リハビリの必要性がわかる。 脱臼について理解できる。	リハビリに応じて生活動作を向上することができる。 脱臼に注意しながら日常生活が送られる。	退院の準備ができる。 退院後の生活の注意点について理解できる。		
処置・検査・観察	入院時に検温を行います。 弾性ストッキングのサイズを測定します。澤村義肢により術後装着するウルTRASリングの調節を行います。	手術前に検温を行います。 手術前に弾性ストッキングを履きま す。 義歯、時計、ヘアピン等の装飾品は外してください。	手術室でウルTRASリングを装着して病室へ戻ります。装具は術後2週間装着します。 必要に応じて検温を行います。胸に心電図のモニターをつけます。酸素のマスクをつけます。両足に弾性ストッキングとフットポンプをつけます。 患部を冷やします。	必要に応じて検温を行います。 状態が安定していれば心電図モニターを外します。 朝に採血があります。 患部を冷やします。	必要に応じて検温を行います。 傷口のガーゼを交換します。 患部を冷やします。	毎日、検温を行います。 月・木曜に医師が傷を確認し必要に応じてガーゼを交換します。 術後10日目を目安に抜鉤を行います。 医師の指示により、採血・レントゲンがあります。 患部に熱感があれば冷やします。	毎日、検温を行います。 医師の指示により、採血・レントゲンがあります。 患部に熱感があれば冷やします。		
内服	普段通りです。	中止薬() 中止薬以外の薬は朝()時まで に内服してください。	食事が再開になれば薬も再開します。 中止薬は、指示があるまで中止です。 術後、状態が安定するまで看護師が薬を配ります。	痛み止めの薬が出ます。	ベッドから起きられるようになれば、薬は自分で管理します。				
点滴		朝、医師が点滴の針を挿入します。 その後、点滴を行います。 点滴は、指示があるまで続きます。	点滴が翌日まで続きます。 抗生剤の点滴を行います。 術後、医師の指示により痛み止めの薬を使用します。	抗生剤の点滴を行います。					
安静度	普段通りです。	普段通りです。	ベッドの上で安静になります。 寝返りや起き上がりはできますが、看護師と一緒にします。	身体状況に応じて理学療法士と車椅子に移動する練習を行います。	理学療法士と車椅子に移動する練習を行います。	リハビリに応じて、段階的に移動手段を変更していきます。指示が出ますので指示に沿う様にしてください。 車椅子→歩行器→杖歩行			
リハビリ				リハビリが始まります。	リハビリがあります。 (リハビリは日、祝日は休みです)	リハビリがあります。 (リハビリは土日、祝日は休みです)	リハビリがあります。 (リハビリは土日、祝日は休みです) 作業療法士が脱臼予防の生活動作の指導を行います。		
栄養(食事)	普段通りです。 ()時以降絶食です。	絶食です。 飲水は()時まで可能です。	指示により飲水、食事を始めます。	普段どおりです。	→	→	→	→	→
清潔	普段通りです。			体を拭き着替えをします。 お下を洗います。	お下を洗います。	術後4日目を以降から週に2回、看護師と共にシャワーをします。	一人でできるようになれば、シャワーは自立になります。		
排泄	普段通りです。	→	手術室で膀胱に尿を出す管が入ります。 便はベッドの上で便器もしくはオムツを使用します。	トイレに行けるようになれば尿の管を抜きます。					
指導説明	主治医から手術の説明があります。 麻酔科医師から麻酔の説明があります。(手術当日になる場合もあります) 手術室看護師から説明があります。	手術の予定時間は(:)頃です。 時間変更がある場合はお知らせします。	痛みがある時や気分が悪いなど何かあればお知らせください。	→	日常生活の指導を行います。	→	→	→	

☆なお、状態に応じて予定が変更になる場合があります。
ご不明な点がございましたら、お尋ねください。



医師()
理学療法士()

看護師()
作業療法士()

薬剤師()
) 北播磨総合医療センター 整形外科